

日韓の正しい

歴史本が

いま韓国でベストセラー

伊藤澄夫

伊藤製作所社長
中京大学特別栄誉客員教授

戦後40年余り経過したころより、日本に対して歴史に対する謝罪と賠償を何度も「お代わり」を続ける韓国。過去に例がないほど反日を武器に左派政権を維持していた文在寅大統領。戦後レジームから脱却させたい安倍総理が同時に日本のリーダーであることで、日韓関係は戦後最悪となつて

いるのは当然といえる。韓国では歴史やビジネス、外交においてもすぐばれるような嘘をつく。嘘や歪曲以外にビジネスにおいては余分の利益を出すためだろうか手抜き工事も珍しくなく、国内外で建設した橋やビルが数年で崩落した事実は読者もご存じであろう。諸外国で同国の信用を落として

幸い私の韓国人の知り合いでそのようなウソを言う者に出会ったことはないが。特に問題と思うことは歴史の嘘(歪曲)だ。日本の国民や政府は過去にこのことについていちいち反論をしなかったことが、韓国人をわがままにさせたのだ。日本人は他人や他国の悪口、陰口を言うことを良しとしない。だ

いないと同書は伝えている。筆者の現在までの韓国観からして、李教授の身に危険が及んでも不思議でないほどの書籍であり、文政権には大打撃となる内容だ。彼が暗殺される可能性はゼロではないだろうが、絶対にそうならないことを祈る。なにしろ2013年ソウルの公園で併合時代を経験した老人が、「君らが言うのは間違いだ。日帝の統治時代は良かった」と話したことで若者に撲殺されたのだ。

それでも李教授は、無能の新政権のため諸外国からも信用を失い、国家破産しても不思議でない経済の悪化に危機感を持ち、先進国として母国の真の発展を願って出版に踏み切ったのであろう。過去において日本には多くの偉人や侍が日本国を良い方向に導いてきたが、李教授は韓国の真の侍であり現代の英雄だ。

韓国には安重根という「英雄」がいる。1906年、中国のハルビン駅で伊藤博文総理を暗殺したテロリストだ。この人物が英雄であるということは、韓国の歴史上

が、韓国が慰安婦の謝罪と賠償を今後もお代わりを続けるなら、「ベトナム戦争で韓国兵が強姦して生まれた数万人のライダイハン(韓国人とベトナム女性との混血児)と虐殺した遺族に謝罪と補償をしたのか?」と大声で言うべきだ。

今も差別で苦勞している混血児が日本軍人の子であれば韓国は日本と世界に対して毎日のように非難をするだろう。現在まで韓国政府はベトナムに対して謝罪はないし、罪を認めようとしてない。集団強姦は、慰安婦とは比べようもない犯罪なのだが。

日本の経済力や技術力、多数のノーベル賞、昨年は「良い国」としてスイスに次ぎ世界で2番になつてきていることなどに、韓国人はうらやましく思うと同時にいまいましく思っている。よつて、歪曲された日本の歴史を他国に発信すること、日本より韓国のほうが良い国」と思われたいのだろうが、これは中学生程度の発想だ。

勇気ある学者の一石

いま、報道管制されている韓国

どこを探しても真の英雄がいないことを表している。

実現遠い日韓のコラボ

文大統領は経済や外交に無知であり、その無能のリーダーシップによつて、韓国にとつて取り返しのつかない経済低迷と修復が不可能なほどの日韓関係となった。

歴史にifはないが、もし文政権が生まれる以前にこの書籍が出版され、多くの良識のある韓国人に日本との真の歴史を理解してもらつていたら、今の日韓関係にはなつていないだろう。

歪曲された歴史で日本を苦しめ、世界にそれをアピールするころは、韓国人にとつて気分が晴れるだろうが、それが自国の経済低迷となり、世界で信頼を落としてまで行うメリットがあるのかを考へるべきだ。

日本と韓国が互いに信頼できる交流ができれば、日韓の共存によつて韓国は世界の先進国として歩めただろう。筆者の知る韓国の大学教授や官僚、金型関係者、学生のレベルは非常に高い。日本の

で信じられないことに、日韓の正しい歴史や思想が書かれた書籍『反日種族主義』がベストセラーとなつている。著者は李栄薫教授(ソウル大学名誉教授)だ。内容の一部を紹介すると、

■最低賃金の急激な引き上げにより国の経済はさらに悪化する。

■韓国経済の実態と特質を知らない素人政権は分配思考と規制一辺倒の政策に固執している。

■無能で無責任な政治家が権力を握る場合、いかに大きな混乱を招くかを教科書的に示している。また日本との葛藤を増幅させ、韓日友好協力関係を破綻させる。

■1965年の日韓協定で両国間、両国民間一切の請求権が消滅した。その後50年間協定を守ってきたが、突然韓国最高裁が日本企業に賠償するよう命令を出した。これは請求権協定を破棄するということだ。

■多くの韓国人は教科書や映画、歴史書で接した通り、日本が植民地支配の35年間、韓国人を抑圧、搾取、収奪、虐待したとあるが、この事実は通念が事実に基づいて

長い歴史と幅広い技術力、それに頑張り屋さんの韓国人とのコラボが成れば、世界最強になれる資質はある。

しかし残念なことに、現在の文政権下で日韓関係が修復される可能性は1ミリもないのだ。



いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役就任、現在に至る。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。

(社)日本金型工業会・副会長、国際委員長を歴任。中京大学大学院ビジネスイノベーション研究科客員教授、国立ソウル科学技術大学校金型設計科名誉教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与、2018年は中京大学初の称号、特別栄誉客員教授を授与される。著書に『モノづくりこそニッポンの岩』『ニッポンのすごい親父力経営』がある。